

学。二年で卒業し、薬剤師の国家試験を受けてパスした。

〇——いくつの時ですか。

十六歳だった。その時は日露戦争で、陸軍薬剤師の不足を補うため、民間人を採用して予備役の薬剤師にしていた。私は熊本陸軍予備病院に勤めることになったけれども、未成年だったから、陸軍省職員という名目で入り、同じ仕事をしていた。終戦になると、残務整理に残された。一時賜金八十円と従軍記章をもらった。月給が、二十五円に戦時手当二割をつけて三十円だった。

## スキャキが七十銭

——どうもピンときませんけれども

(笑)

下宿が、月に五、六円だったよ。五高にいたころでも新市街(山崎練兵場跡)に「いろは」という牛肉屋があったね。そこですき焼を腹一杯食って、七、八十銭。酒を飲んで、せいぜい一円位だった(笑)。

——夢のような話ですけれども……と

ころで日露戦争後はどうされましたか  
薬学校の助手を一年足らずやって、東京に出ることになり、大手町にあった私

立商工中学の四年末期にはいつて中学を終え、それから、第五高等学校の二部甲に入学。次に九大工学部の応用化学科を卒業して、学歴は終わったわけです。二十七歳だったな。よく在京熊本出身者の会合で、熊中ですか、済々齋ですかと聞かれるが、そんな名門をくぐったことはないんだ。

——大学ではガラスのことを研究されたのですか。

大正四年に大学を出て旭硝子に入社したが、何も硝子に興味を持っていたわけではなくて、九大の恩師・西川虎吉博士の推薦で入社することになった。私の卒業論文は、乳酸菌を使って乳酸を製造するという酸酵学で、硝子とは関係なかった。

——お若い頃は、やはりいろいろと苦労があったと思いますが……

入社した頃は、旭硝子も欠損続きでね。第一次世界大戦でようやく芽が出るかなあという時代だった。製造様式も、板硝子の手吹き時代から次々に新しくなり、会社も積極的に、いろんな種類の製品を手がけて行った。

大東亜戦争後は、マッカーサー元師の追放を受けて、昭和二十二年から四年間、閉門になった。二十六年の二月に追放が解除されて、復帰したんだ。

## 合議制を尊重

——いまは、ガラス業界の最大のメーカーとして、多角的な経営をされているわけですが、企業経営についての持論とございますか、哲学とございますか、その辺のことを……

会社は合議制を尊重し、衆知を集めながら論議した結論を実施することに務めてきた。自分で大号令を出すような実力はないし、みんなが一緒の仕事をすることにふさわしい雰囲気をつくることに努めただけだよ。

旭硝子の社是としては、第一に「和」をモットーとし、第二に「困難にぶつつかれ」、第三「仕事と共に生きよ」であり、一生を実に楽しく過ごしてもらった。身体もまあまあで、いい会社にはいったものだと思っているよ。

——お会いしてすぐ、とてもお若くて、元気なのに驚いたのですが、何か健康の秘訣でも……

いや、特別にはないね。運動も五高の頃、柔道とボートをちょっとやった位……

——薬剤師というのが秘訣かもしれませんね(笑)。話は変わりますけれども

期にわたる「美しい熊本づくり運動」を展開してまいります。ネライは、自然保護を基調に、美しい住みよい郷土をつくらうというわけですが、熊本の観光開発についての先生のお考えを……

「美しい熊本づくり運動」は、誠に結構なことです。熊本に限らず、いずれの都市も、戦後の荒廃のまま、ズルズルと忘れられがちだった。是非やらねばならない問題だね。観光事業もそういう線に沿って進めるならば、鬼に金棒だろうと思うね。

## 将来の飛躍のために

——ご承知のとおり、熊本の経済は、まだまだです。ですから、自然保護の一方では、地域開発を進めねばならないわけですね。さいわい、美南会をおつくりになって、郷土のためにお力添えをいただいておりますので、熊本の経済開発に対するご意見を……

熊本県の工業化は、漸くここ数年、弱電とか繊維関係などの進出が目立っているが、ことに、日立造船の進出は圧巻であり、これによって熊本に重工業が定着し、さらに、関連工業の育成をきたすと

も、先生ご自身、何度も外遊され、若い社員もどしどし外国へやっておられるそうですね……

若い人を出すのは、アメリカや欧州の硝子会社とか化学会社といろいろ関係があるし、これからはますます国際化するからね。海外視察はいよいよ重要になってくるよ。

——ご存じかと思えますけれども、県でも従来の派米農業研修生、海外青年協力隊などに加えて、ことしから、九州青年の船や職員の海外研修などを始めて、そうした動きに対応しようとしております。

それはいいことだ。

## ヨーロッパへ片道千円

——余談になりますが、昔の海外旅行はどんなものでしたか。

私が初めて外遊したのは、大正十四年だったからいまから四十七年前のことだが、当時は、第一次世界大戦で、この頃のように世界的に為替相場が落つかず、海外出張員の旅費その他の精算に困ったので、旅費の請負制度が取られていた。世界一周、期間十カ月、手当一万円というところで全部の費用をまかなうよう定められていた。そして、当時は日本から欧州のどの港まで行くにも百ポンドだった。

それで、世の中の進歩から取り残され、後進県の名を冠せられないようにしたいね。

——長期的にみて、いまは熊本県にとって非常に重要、かつ難しい時期であるうかと思えます。百年の計を誤らないために、何かご意見がありましたら……

新熊本空港、九州縦貫道、新幹線と大分目鼻がついてきたし、熊本新港の呼び声もある。昔から「まかぬ種ははえぬ」というように、金をかけないと態勢は整わない。公共事業に政府も力を入れるというし、金融事情も緩和気味だから、いまの時期に今後の飛躍の基礎をつくっておくことが大切ではないかな。

——最後に好きなことは何ですか。見たり、聞いたりするのは何でも好きだが、自分でやるのは嫌いだな(笑) いろんな会合に出て、友人と欲談するのが一番楽しい。

——お酒も大変お強いそうぞうで(笑) きょうは、お忙しいところを、どうもありがたうございました。 いや、どうも。